

2019年度公衆衛生学 各講義の学習目標

公衆衛生学最終試験のための学習ポイントです。講義内容を良く復習するように。

月日	項目	課題
9月2日	公衆衛生学の基礎: 総論 (公衆衛生学とはどんな学問か?)	公衆衛生学の位置づけ・意味を、WHOの視点、日本の法的根拠から説明できる。 ブロードストリートコレラ事件から学ぶ、公衆衛生学アプローチの考え方を説明できる。 行動変容の段階、及び、各段階における支援策を説明できる。 「古之善為医者」について、公衆衛生的視点で説明できる。
9月2日	公衆衛生学特論: がんの疫学	がん対策基本法における基本的施策の説明ができる。 がん登録とその対象者を説明できる。 がん予防におけるヘルスプロモーションの重要性を説明できる。 がん検診の利益と不利益について具体的に説明できる。
9月2日	生涯を通じた健康づくり: 成人期① (日本人の健康状態・難病)	一次予防、二次予防、三次予防について、詳細に説明できる。 主要死因別にみた年齢調整死亡率の近年における推移の特徴を、性別で説明できる。 喫煙本数別の、禁煙後年数に応じた効果について、肺がんを例に、説明できる。 ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて脳卒中を事例に用いて説明できる。
9月6日	公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(国際保健の立場から)	国際協力の体系について説明できる。 SDGsの概要について説明できる。 日本における政府ベースの二国間協力について、その形態を含め概要を説明できる。 患者が海外に行く時に、渡航医学の観点でできることについて説明できる。
9月6日	生涯を通じた健康づくり: 出生前・周産期	リプロダクティブ・ヘルスについて、1994年国連人口開発会議で確立された概念を説明できる。 日本の合計特殊出生率の動向について、諸外国と比較して説明できる。 子育て世代包括支援センターの役割について、概要を説明できる。 日本の少子化社会対策の流れについて説明できる。
9月9日	公衆衛生学特論: 難病の疫学	2014年「難病の患者に対する医療等に関する法律」(難病法)に規定され、医療費助成の対象となっている“指定難病”について、その要件を述べることができる。 難病医療費助成制度の支給認定の流れについて、説明できる。 難病指定医と協力難病指定医の要件をそれぞれ述べることができる。 難病相談支援センター事業について説明できる。
9月9日	生涯を通じた健康づくり: 成人期② (生活習慣病のリスクと予防: 総論)	生活習慣病の疫学的特徴を踏まえ、疾病発生への寄与の視点から、生活習慣への働きかけの意義を説明できる。 性・年齢階級別の成人の喫煙率の違いの原因について、考察できる。 性・年齢階級別の運動習慣者の割合、歩数の平均値の違いを説明できる。 年齢階級別の高血圧症有病者の割合の推移を、食塩摂取量の推移から説明できる。
9月9日	生涯を通じた健康づくり: 成人期③ (生活習慣病のリスクと予防: 各論)	日本人における脳卒中の特徴(推移、原因)を詳細に説明できる。 特定健康診査・特定保健指導について、その概略を説明できる。 健康日本21(第2次)における栄養・食生活、身体活動・運動、休養の具体的な目標を説明できる。 健康日本21(第2次)における飲酒、喫煙、歯・口腔の健康の具体的な目標を説明できる。
9月13日	生涯を通じた健康づくり: 周産期・乳幼児期	DOHaD 説とは何か、説明できる。 近年の母子保健における重要課題の6つを簡潔に説明できる。 健やか親子21(第2次)について、その目指す姿、3つの基盤課題、2つの重点課題、目標を述べることができる。 合計特殊出生率について、その算出方法と人口動態統計をもとにした近年の動向を説明できる。
9月13日	公衆衛生学特論: 原子力災害の公衆衛生	医学と情報の共通点について説明できる。 リスクとハザードの違いについて説明できる。 医療におけるリスクコミュニケーションで重要なことは何か説明できる。 リスク状況(不確実性)における意思決定の要素を説明できる。
9月20日	生涯を通じた健康づくり: 高齢期② (老年症候群 老年病)	老年症候群について、その特徴と概要を説明できる。 フレイル、及び、サルコペニアについて概説できる。 認知症の予防の考え方を図を用いて具体的に説明できる。 「愛こそは想像力です」を高年齢保健の視点から論ずることができる。
9月20日	公衆衛生学特論: 医療経済	医療の経済学的特殊性について説明できる。 医療保険の種類とその概要について説明できる。 医療保険におけるモラルハザードとその対策について説明できる。 日本の医療保険の成果について説明できる。
10月4日	生涯を通じた健康づくり: 学童期・思春期・青年期	平成21(2009)年に『学校保健法』が『学校健康安全法』に改正された背景について説明できる。 学校三師の主な役割と職務について具体的に説明できる(学校健康安全法)。 健康な生活を送るために、児童生徒に必要な力を上げることができる(現代的健康課題を抱える子供たちへの支援: 平成29年3月文部科学省) 学童期の好発疾患について、年次推移と近年の傾向について説明できる。(文部科学省「学校保健統計」)
10月4日	生涯を通じた健康づくり: 成人期④ (メンタルヘルス)	精神保健福祉法で定められた入院形態について説明できる。 精神保健福祉の現状について、「社会復帰」、「地域移行」の必要性を中心に説明できる。 日本のメンタルヘルスの変遷の概要を説明できる。 日本の自殺の現状について説明できる。
10月4日	公衆衛生学の基礎: 地域医療を担う医師として働く(病院医師として)	慢性心不全管理に必要なことを説明できる。 心臓リハビリテーションの目的、対象疾患について説明できる。 心不全の自己管理モデルにおいて、重要なことは何か説明できる。 慢性心不全の生命予後規定因子について説明できる。

10月11日	公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(保健所の立場から)	保健所の役割について説明できる。
		地域保健を担う関係機関について概説できる。
		健康危機管理における保健所の役割について説明できる。
		保健所における結核患者届出後の主な対応について説明できる。
10月11日	生涯を通じた健康づくり: 高齢期① (高齢社会: 総論)	加齢と老化の特徴について具体的に説明できる。
		高齢期における健康指標について説明できる。
		老年人口割合の推移および、その課題を説明できる。
		日本における戦後の平均寿命の延伸の要因について具体的に説明できる。
10月11日	生涯を通じた健康づくり: 高齢期③ (高齢者保健対策)	ICIDHからICFへの転換の意義と、ICFの概要も含め説明できる。
		地域包括支援センターの機能を含め、概要を説明できる。
		サクセッフル・エイジング、及び、プロダクティブエイジングについて説明できる。
		高齢者のための国連原則について具体的に説明できる。
10月18日	生涯を通じた健康づくり: 高齢期④ (介護予防)	介護保険制度の概要について説明できる。
		介護保険制度における医師の役割について説明できる。
		介護保険制度が「予防重視システム」に転換されるに至った経緯や意義について説明できる。
		要支援・要介護状態になる主な原因を、主要な死因との違いから説明できる。
10月18日	公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(研究者の立場から)	地域診断と健康政策のサイクルを、臨床におけるサイクルとの比較で説明できる。
		公衆衛生事業における評価の進め方を具体例を用いて説明できる。
		地域で働く公衆衛生医の実例から、公衆衛生医の役割について説明できる。
		“Think globally, act locally”を、公衆衛生学講義の具体的事例で説明できる。